

HUMAN HEALTH

ENVIRONMENTAL HEALTH



MAKING A
WORLD OF
DIFFERENCE

Corporate Social Responsibility Report

パーキンエルマー CSR レポート



PerkinElmer
For the Better

CHARTING A COURSE FOR THE BETTER



TABLE OF CONTENTS

	GRI 索引 *	ページ
PERKINELMER AT A GLANCE (パーキンエルマー概要)	2.1, 2.4, 2.5, 2.6, 2.8	2
CEO LETTER (CEO から皆さまへ)	1.1, 1.2, 4.12	3
OUR GLOBAL CSR MANAGEMENT AND STRATEGY (パーキンエルマーのグローバル CSR マネジメントと戦略)	4.17	5
OUR PRODUCTS (パーキンエルマーの製品)	2.2, 2.7	6
STAKEHOLDER ENGAGEMENT (ステークホルダー・エンゲージメント)	4.14, 4.15, 4.16	7
GOVERNANCE (ガバナンス)	2.3, 4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9, 4.10, 4.11, SO2, SO3, SO5	8
EMPLOYEES (従業員)	EC3, EC7, LA1, LA2, LA3, LA4, LA11, LA12, HR5, HR6, HR7	9
COMMUNITY ENGAGEMENT (地域活動への参加)	EC1, SO1	11
HEALTH AND SAFETY (健康と安全)	3.10, LA7, LA8	13
ENVIRONMENT (環境)	2.9, 2.10, 3.11, 4.13, EN3, EN4, EN6, EN8, EN16, EN18, EN22, EN26, EN28, PR1, PR3	14
ECONOMIC (経済)	2.9, 3.11, EC1, EC4	19
GRI CONTENT INDEX (GRI 内容索引)		20
ABOUT THIS REPORT (このレポートについて)	3.1, 3.2, 3.3, 3.4, 3.5, 3.6, 3.7, 3.8, 3.9, 3.11, 3.13	20
PERKINELMER JAPAN CSR ACTIVITY (パーキンエルマー日本の取り組み)		21

* GRI 関連索引は、具体的な GRI 指標がこのレポートのどこに開示されているかを記載しています

PERKINELMER AT A GLANCE ~パーキンエルマー概要~

- ▶ 1937年創立
- ▶ 米国マサチューセッツ州ウォルサムに本社
- ▶ 株式銘柄記号はPKI (NYSE)
- ▶ 全世界に約6,200名の従業員
- ▶ 世界150カ国以上で事業活動を展開
- ▶ 製造施設・研究開発施設
カナダ、フィンランド、オランダ、ドイツ、インド、中国、シンガポール、英国、米国



Dear customers, shareholders, and colleagues, Welcome to our second annual Corporate Social Responsibility (CSR) report.

～パーキンエルマー CSR レポートへようこそ～

2010年、パーキンエルマーはCSRに対する戦略的コミットメントをさらに発展させ、さらに良き企業市民としての活動を広げることができ、成果として出せたことを嬉しく思います。

本レポートでは、製品スチュワードシップやEHS（環境・衛生・安全）、地域活動について、昨年設定した持続可能な目標と照らし合わせ、その進捗状況をご報告いたします。本レポートは、GRI第3版ガイドラインの要素に沿って作成されており、パーキンエルマーの業績が経済、環境、社会の各側面から公平かつ正確に表されています。また、パーキンエルマーは、2008年から国連グローバルコンパクト（UN Global Compact : UNGC）に参加しており、本レポートはUNGICに対するパーキンエルマーのコミットメントとしての意味も持っています。

パーキンエルマーは、2013年までに二酸化炭素排出量10%削減という目標の達成に向けて世界各国の従業員が力を合わせて取り組み、大きく前進することができました。さらに、一部の事業所では、2015年までに「埋め立てゴミの排出ゼロ」にするというチャレンジを開始しました。最近発売を開始したSpectrum Two™ 赤外分光分析装置では、製品・消耗品・試薬のエネルギー効率の改善を行い、さらに、二酸化炭素排出量削減やリサイクル材料の利用も開始しました。

世界各国の従業員は、地域活動の一環として、ボランティアへの参加や血液バンク、疾病対策団体など地域社会の慈善団体を支援することを目的として、啓発活動や募金活動などを行っています。また、会社全体としては、従業員の健康活動に注力をしてまいりました。

2011年、全従業員が一日地域サービスに取り組む「For the Better Day」活動を通じて、地域社会への還元という全世界的なコミットメントを進めてまいります。また、製品スチュワードシップおよびEHSについても、持続可能性目標の達成に向けた努力を続けてまいります。

ひとびとの健康と安全、そしてそれをとりまく環境を守るというミッションを達成し、良き企業市民としてのコミットメントを深めていく中で、パーキンエルマーが今後も世界を変えていくことを確信しています。

Robert F. Friel
ロバート F.フリエル

Chairman and Chief Executive Officer
PerkinElmer, Inc.



LIVING OUR MISSION EVERY DAY

パーキンエルマーは企業市民として、地域社会においてより良い成果を上げること、世界全体でひとびとの健康とそれを取りまく環境に貢献することに積極的に取り組んでいます。地域活動への参加や製品スチュワードシップ、責任ある持続可能な事業手法を通じて、パーキンエルマーは変化をもたらすことに注力します。こうしたコアバリュー（core value）は、パーキンエルマーの中で、個人としても企業としても、意思決定と活動の根幹を成すものです。

パーキンエルマーは、ひとびとの健康とそれを取りまく環境を見据え、疾病・汚染・健康への脅威に対する取り組みを展開しています。様々な疾病や治療薬の研究、新生児スクリーニングから環境分析、工業モニタリングまで、世界各国でひとびとの健康と生活の質の向上のため、これからも全力で取り組みます。



OUR GLOBAL CSR MANAGEMENT AND STRATEGY

～パーキンエルマーのグローバルCSRマネジメントと戦略～

パーキンエルマーのCSRは、社会的・環境的な視点を事業・製品・サービスに取り入れることに主眼を置いています。社内ステークホルダーの部門横断的委員会であるCSRリーダーシップ委員会と、経営陣から成るCSR執行委員会が、このイニシアチブを主導しています。

CSRコミットメントを明確なものにする一環として、我が社のプログラムの戦略的側面的を絞る目的で、CSRリーダーの役職を設置しました。

CSR Goals ～CSR目標～

- ▶ パーキンエルマーの全世界の温室効果ガス排出量を、2013年までに対2009年比で10%削減する。
- ▶ 追加の企業環境目標と関連の達成指標を設定する。
- ▶ 地域貢献や地域活動に関する情報収集を強化する。
- ▶ 「For the Better Day」という地域活動のプログラムを設置し、従業員に参加を呼び掛ける。
- ▶ 製品スチュワードシップのデータを収集し、ケーススタディポートフォリオを作成する。



国連グローバルコンパクト（UNGC）に2008年から参加している企業として、パーキンエルマーは、UNGCの10の原則を順守しています。2010年、我が社は環境と腐敗防止の原則を重点的に扱った初の進捗報告（Communication Progress, COP）を提出しました。今後のレポートは、UNGCの全領域に対応したものとします。

我が社のCOPは、<http://www.unglobalcompact.org/participant/7339-PerkinElmer-Inc>、でご覧になれます。

ステークホルダーの皆さまと協力して、UNGCの原則を念頭に取り組む中で、我が社は次の3つの活動を社会活動、環境活動の重点項目として位置付けています。



Reduce ～削減～

従業員にとって安全で健康的な労働環境を維持しながら、事業による影響を削減するための環境・健康・安全管理システムを改善する。



Engage ～参加～

戦略的フィランソロピーの文化を育成し、地域貢献とボランティア精神を通じたCSRイニシアチブへ従業員の参加を促進する。



Improve ～改善～

環境と社会への配慮を企業の研究・設計部門に取り入れ、製品とサービスが負う責任をライフサイクル全体で強化する。



OUR PRODUCTS ～パーキンエルマーの製品～

パーキンエルマーの製品とサービスは、生活の場・職場・遊び場をより安全な場所とすることにより、ひとびとが長くより健康的な人生を送るお手伝いをすること、そして、環境を守ることをめざして設計されています。パーキンエルマーのブランドのもとで発売される製品は、その多くが世界各地で規制当局による承認を受けています。

Human Health

パーキンエルマーは、研究用機器や診断機器を開発するだけでなく、臨床リソースやサポートサービスの提供も行っています。すべては、疾病の正確な早期診断と、より効果的な治療法の開発の支援をめざすものです。我が社の製品は、遺伝子スクリーニングプロセッサ (GSP) や、DELFI A 検査システムから、ViaCord® とよばれる臍帯血・組織バンクサービス、新生児やがんに関する様々なスクリーニング機器まで、非常に幅広い分野に及んでいます。

Environmental Health

分析機器から環境モニタリングサポートまで、パーキンエルマーの技術と専門知識が活かされています。これらの技術やサービスは、よりきれいな空気と水、そして安全な製品と食品を提供するお手伝いをしています。Environmental Health に関する製品には、NexION® ICP-MS や Flexar SQ 300 MS などがあります。

ONESOURCE® LABORATORY SERVICES

パーキンエルマーの OneSource® ラボラトリーサービスは、10 年以上の先駆的歴史を持つラボ向けのアセットマネジメントソリューションであり、すでに 40 万件を超えるマルチベンダーアセットのマネジメントを請け負っています。OneSource® は、単なる機器のメンテナンスや修理を超え、ラボのアセットマネジメントプログラムをお客様の「ビジネス方式」に組み込むことであり、お客さまにとっては世界中で効率化・運用の最適化・コストの平準化の面で多くの実績を持つ力強いパートナーとなります。

Protecting Our Environment ～環境を守る～

パーキンエルマーの EcoAnalytix™ ソリューションは、大気・水および土壌の質をモニタリングします。この分析機器とソリューションは、世界基準や EPA、ASTM、EN などによるメソッドに準拠しています。安全な環境を維持することは、パーキンエルマーの CSR ミッションの重要な要素の一つです。

Engineered to Minimize Waste

～廃棄物の最小化をめざす～

誘導結合プラズマ質量分析装置 (ICP-MS) のロバスト性の向上およびユーザメンテナンスの削減により、パーキンエルマーは、コネチカット品質向上賞 (Connecticut Quality Improvement Award : CQIA) を受賞しました。この機器は、物質中の金属・非金属を検出するために用いられます。CQIA は、マルコム・ボルドリッジ国内品質賞 (Malcolm Baldrige National Quality Award) の審査基準を適用した、米国内初の州レベルの品質表彰です。

Keeping Our Children Safe ～子どもたちの安全を守る～

パーキンエルマーの PlaySafe™ は、Optima™ ICP 技術を応用し、玩具メーカーが子ども用玩具に含まれる鉛などの低レベルの重金属を検知できる装置です。PlaySafe™ は、Clarus® 技術と合わせ、プラスチックに含まれるフタル酸エステルの検出にも使用できます。子ども用玩具には米国消費者製品安全性改善法 (Consumer Product Safety Improvement Act) の順守が義務づけられていますが、PlaySafe を使えば、たとえばシンガポールの Insight Laboratories のような第三者検査会社が、コンプライアンス証明書を発行することも可能になります。

Predicting Risk Factors for Disease

～疾病のリスク要因を予測する～

パーキンエルマーは、次世代の DNA シークエンシングおよびデータ分析サービスを開始しました。このサービスを利用すれば、研究者による疾病のゲノム起源の探索が容易になります。シークエンシングおよびデータ分析サービスにより、シームレスで高効率・高価値かつコスト効果の高い、ヒトとマウスのエキソシリシークエンシングを提供します。これは、疾病関連の情報的大部分が由来するゲノムのエクソン部分に注目する解析方法です。医師がより正確に患者のリスク要因を予測できれば、疾病の回避のためにより効果的な治療が可能になります。

STAKEHOLDER ENGAGEMENT ～ステークホルダー・エンゲージメント～

ステークホルダー（利害関係者）の理解が進むほど、そのニーズにより的確に対応できるようになります。だからこそ、意見を聞きその情報から学ぶため、様々な形でステークホルダーの参加を求めています。これにより、トレンドやリスク、チャンスについて価値ある見識を得ることができ、

ステークホルダーがパーキンエルマーに何を期待しているかを理解することができます。その声を注意深く聞きながら、今後もそのフィードバックを企業戦略や優先課題に取り入れてまいります。

PerkinElmer Key Stakeholders and Engagement Highlights ～パーキンエルマーの主なステークホルダーとその取り組み～

STAKEHOLDER	Engagement ～取り組み～	2010 EXAMPLES ～例～
Employees ～従業員～	<ul style="list-style-type: none"> 社内ウェブサイト 定期的な情報伝達 従業員意識調査 業績評価（個人、360度評価） 首脳陣のブログ 社会ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 四半期ごとの全従業員向けビデオメッセージ発信 CSR 関連イントラネットサイト CSR ニュースレター 年次従業員意識調査 LOR (Leadership Organizational Review) プロセス For the Better 活動
Customers ～お客様～	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報伝達（Eメール、口頭） ウェブサイト Perkinelmer.com 問い合わせへの対応 顧客意識調査 製品開発 	<ul style="list-style-type: none"> WaterAid 販売促進 がん患者のためのキリマンジャロ登頂へのお客様の協力 お客様による CSR 情報請求
Suppliers ～サプライヤー～	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報伝達（Eメール、口頭） サプライヤーの評価・監査 サプライヤーの意識調査 製品開発 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー評価および監査 GSS 契約に人権および児童就労の条項を追加
Investors/Analysts ～投資家・アナリスト～	<ul style="list-style-type: none"> 四半期ごとの営業報告 定期的な電話会議 プレゼンテーション 定期的な情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> UBS グローバルライフサイエンス会議 Stifel Nicolaus 2010年ヘルスケア会議 JP モルガン ヘルスケア会議
Communities ～地域社会～	<ul style="list-style-type: none"> 従業員によるボランティア活動 寄付一助成金および現物寄付 災害救援 非営利的関与 企業としてのスピーチ 	<ul style="list-style-type: none"> World Water Monitoring Day ハイチおよび中国の震災救援 チャリティー用自転車の組み立て 「March of Dimes」のイベント
Governments ～行政機関～	<ul style="list-style-type: none"> 規制の順守 政策立案プロセス 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な検査 製品評価と承認

GOVERNANCE ～ガバナンス～

パーキンエルマーの企業文化は、強いリーダーシップから生まれます。取締役会は、我が社の倫理と信頼性のコアバリューに沿って、コーポレートガバナンスに高い水準を設定しています。取締役会、役員委員会、取締役・役員報酬、インセンティブプログラム、その他、株主その他の皆さまとの情報伝達については、**株主総会招集通知書**の中で詳しくご紹介しております。

Corporate Governance at PerkinElmer Includes the Following

～パーキンエルマーのコーポレートガバナンス～

コーポレートガバナンス ガイドライン – このガイドラインは、取締役会および経営管理についてのガバナンス方針と手続きを定めています。

業務遂行基準 (Standards of Business Conduct) – この基準は、個人および企業としての行動の指針となる価値観と原則を定めています。すべての従業員はこの基準について 15 カ国語で用意された研修を受けます。また、基準に定められている通り、倫理ホットラインを使って、世界中のすべての従業員が匿名で違反の疑いを報告できるようになっています。倫理ホットラインへの報告事例はすべて、倫理委員会が調査・対応を行います。

コンプライアンス委員会 – この委員会は、世界中の各部門・事業内でコンプライアンスを評価・監視しています。その結果は、定期的に取り締り会の監査委員会に報告されます。

内部監査 – 内部監査グループは、統制環境の評価と強化、財務報告の信頼性向上、企業経営の改善を目的とした評価を行い、独立した客観的な保証を提供します。監査グループは、取締役会の監査委員会に定期的に報告を上げています。

公共政策 – 国および地方政府と協力して政策立案プロセスに参画することは、我が社の事業の重要な一部になっています。我が社が関連するセクターに世界的な影響を与える数々の政策について思慮深く建設的な提言を行うため、包括的な意見交換の機会を希求しています。公共政策に対応するため、先見的な関係の構築と、規制・行政問題のモニタリングができるよう態勢を整えています。

リスク管理 – リスク管理原則の一環として、パーキンエルマーは、リオ宣言の第 15 原則の予防的アプローチに賛同しています。リスクを特定・評価・管理するための科学的根拠にもとづくプロセスを活用し、このプロセスにより意思決定を行うとともに、製品や事業運営にも応用しています。

パーキンエルマー社内のすべてのリーダーは、担当する事業・部門について、年間事業リスク評価を行います。このプロセスで特定された事業上のリスクは、社会的・環境的・倫理的リスクとともに、上級管理職の部門横断的な会議で検証の上、優先順位を決定します。その結果は取締役会の監査委員会が検証し、定期的にモニタリングして、最大のリスクを軽減するために適切なリソースを配分します。

サプライヤー – 高品質で価格競争力のある部品・成分・原材料を遅滞なく入手することは、パーキンエルマーにとって極めて重要です。地域・地方のサプライヤーや世界的なサプライヤーの参与を得て、我が社の「業務遂行基準」に沿った関係を構築しています。サプライヤーとの契約においては、地域・地方・国が定める環境・健康・安全・労働に関する法的要件の順守を必ず求めることを、我が社の方針にしています。さらに、2010 年、児童就労や強制労働の使用禁止など、人権問題に関わるサプライヤーの行動規範を契約に盛り込むことも開始しました。

調達プロセスの一環として、直接のサプライヤーに対して自己評価テストを実施し、パーキンエルマーの供給管理担当者がこれを評価しています。予測される事業上・技術上のリスクにもとづき、サプライヤーに対する監査も実施しています。

SEC 規則にもとづき、電子機器の製造に使用する金属については、コンゴ共和国などの紛争地域で採掘され、人権侵害・不法な事業・紛争の継続の資金源として利用される可能性のある金属の原産地を判別するため、サプライチェーンに関するプログラムを開始しました。プロセスの監視により、調達を変更する必要があるかどうかを判断します。

SUPPORTING A CULTURE OF COLLABORATION & INGENUITY



EMPLOYEES ~従業員~

Approach ~アプローチ~

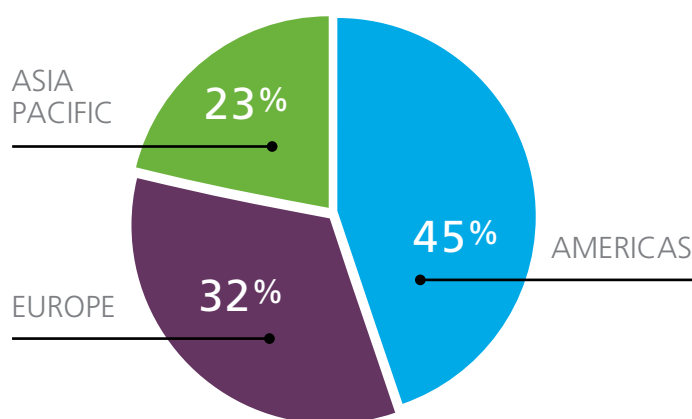
パーキンエルマーは、従業員こそが最も重要な財産であると考えています。各組織において人材を採用し、パフォーマンスを最大限に高めることで、我が社の成功があります。この業界での人材の争奪は厳しく、優れた人材の採用、育成および定着化に努め、尊厳と多様性のある勤務環境を創り出しています。

Specifically, we: ~以下のような取り組みをしています~

- ▶ 画期的なソリューションを希求する起業家精神を育む職場環境の整備に努める。
- ▶ 創意工夫・リーダーシップ・探究心・信頼性について、個人のコンピテンシーを高める。
- ▶ チームワークと能力開発を日々のミッションの根本的な部分に位置づける。
- ▶ 従業員が自身の健康について学び増進していけるように、従業員の福祉と健康を最重要視する。
- ▶ 事業の買収・売却の際にはできるだけ早期に従業員に通知し、影響を最小限にとどめ、可能な限り移行をスムーズにする。

従業員の意識をみるため、世界全体の調査や事業所ごとの調査などの方法を採用しています。嬉しいことに、2010年の自主退職率は過去最低の7%となりました。

Employee Distribution



Approximately 12% of our employees are represented by a union or workers' council.

TEACHING THE TEACHERS



毎年、「理科・技術・工学・数学 (STEM) プログラム」を通じて、パーキンエルマーは、高校の理科の先生方を夏季インターンとして本社研究所にお招きしています。STEM プログラム参加者は研究事業に加わり、新しい知識や分析技術を学びながら、貴重な実地体験を得ることができます。また、この体験が、それぞれの学校での理科教育に新しいコンセプトを生むきっかけとなります。我が社の将来の研究者やビジネスリーダーが有意義な科学体験を得られる授業を作っていただけるよう、先生方を教育するだけでなく、先生方を刺激することをめざしています。

Compensation and Benefits ～報酬と各種手当～

パーキンエルマーに人材を集め維持するためには、報酬や手当の面で業界や地域市場の水準に負けないようにしなければなりません。米国外のパーキンエルマーの従業員も、それぞれの国内法や慣例に沿った同様の手当を受けています。

Human Rights ～人権～

パーキンエルマーでは、人権擁護は一人ひとりに与えられるべき尊厳・自由・尊敬・受容を保証することを意味します。どこで事業を展開しようとも、労働・雇用の法律を理解し、順守します。人権に対する最高水準の信頼性と敬意を持ってグローバルな事業を管理します。また、我が社のサプライヤーにも同じことを期待します。我が社の事業所内での児童就労を禁止するのはもちろんのこと、これをサプライヤーにも周知しています。パーキンエルマーでは、事業のいかなる側面においても、強制的な労働は容認されません。これまで我が社の事業運営において、人権侵害の重大なリスクが検知されたことはありません。

さらに、従業員と管理職の間にも、相手を尊重するコミュニケーションを推進しています。強固で開かれた関係を維持するため、子会社の労働組合や労働会議とも密接に協力しています。

Diversity ～多様性～

個人としての経験が、ユニークな意見・知識・技能の発達を促します。こうした個人間の違いが、私たちの組織を強くしているのです。パーキンエルマーでは、様々な国と地域からひとびとを雇用し、彼らが我が社にもたらす豊かな多様性を高く評価しています。我が社の製品とサービスには、製品開発・製造・セールス・マーケティングについて高い教育を受けた技術を持った労働力が必要です。他社に負けることなく最高の人材を雇用し、職務の要件を満たす地域の人材を可能な限り雇用してまいります。

また、多様性のある職場は、すべての人の機会の均等から始まると考えています。我が社の方針には、人種、肌の色、国籍、出身民族・出身国、宗教、性別、婚姻状況、性的指向、年齢、障害などに関わらず、すべての従業員に対する差別の禁止と機会の均等が明文化されています。

我が社は、従業員の経歴・経験・視点の違いが受け入れられ、尊重される環境をこれまで育み、今後も守っていかうとして

います。これが我が社の組織の大きな強みだからです。

Employee Education and Training ～従業員教育・研修～

パーキンエルマーは、従業員の技能・知識・能力が何よりも貴重な財産であることを強く認識しています。従業員の能力開発への投資が、お客様やその他のステークホルダーに提供できる価値を高め、競争に勝ち成功を取める力となります。従業員教育を通じて、従業員および経営陣の個人また職業人としての成長に関するコミットメントを再確認しているとも言えます。

Taking a Responsibility to Learn

～学び続ける責任を負う～

従業員の能力開発をマネジメントし、従業員が成功するための技能と研修の機会を得られるようにすることを目的としたプロセスとして LOR (Leadership Organizational Review) があります。従業員は年間能力開発計画を管理職と協力して作成します。LOR プロセスは、パーキンエルマーのコアバリューと事業目標に沿い、同時に従業員の個人の目標にも沿ったキャリア目標を設定するプロセスでもあるのです。

我が社のリーダーシップと管理職能力開発プラットフォームは、世界 12 カ国で実施されており、すべての管理職が新しい実地の技能や技術の応用に参与できるようにしています。さらに、オンライン研修プラットフォームを全世界に広げて、多言語におけるオンデマンドの研修を提供できるように現在準備を進めています。

INSPIRING FUTURE LEADERS



パーキンエルマーでは、教員の教育に加えて、科学分野での仕事に就きたいと考える学生も応援しています。STEM プログラムに参加する教員は、マサチューセッツ州ウォルサムにある我が社の研究施設に生徒を連れて来ることができ、教科書にない科学を学ぶプログラムの一環として、生徒たちは機器のデモンストレーションに参加したり、顕微鏡で細胞の成長を見たり、こうした細胞から DNA を抽出したり、様々な技術を使って分析したりすることができます。この実習は、実体験をもって科学を身近なものに感じる場所になっています。



COMMUNITY ENGAGEMENT ～地域活動への参加～

Our Approach ～パーキンエルマーのアプローチ～

私たちが暮らし、仕事をする地域社会に好ましい変化をもたらそうと、パーキンエルマーは最善を尽くしています。一つの貢献や社会活動でも地域社会に対して大きな影響を与えようとしたり、力を合わせばどれほどのことができるでしょう。それが地域活動への参加に関する我が社のプログラムの背景にある理念です。

Specifically, we: ～以下のような取り組みをしています～

- ▶ ボランティア活動に時間を割き、地域社会に貢献するよう従業員に呼び掛ける。
- ▶ 環境問題・社会問題について非政府組織と連携する。
- ▶ 地域社会や事業に影響する災害の救援活動を支援する。

Some of our 2010 community activities included:

～ 2010 年に実施された地域活動例～



World Water Monitoring Day™ (WWMD)への協賛 我が社はスポンサーとして、サンプルの採取と分析ができるキットを参加者に提供し、この活動を支援しました。WWMDは、子どもから大人まで、一般の市民が地域の水質の基本的なモニタリングを行う、国際的な教育のアウトリーチプログラムです。イベントの支援に加え、パー

キンエルマーの複数の従業員がコネチカット州シェルトン市の参加校を訪問し、生徒たちにきれいな水の重要性について授業を行いました。

Employee Outreach ～従業員によるアウトリーチ～

各事業所にある従業員活動委員会は、ボランティア活動や地域活動を組織し支援しています。具体例として、献血運動、地域の学校での相談や学習指導、食品やコートの配布活動への参加などがあります。パーキンエルマーの従業員が、自分たちの地域社会を暮らし、育み、学び、働く場としてよりよいものに変えつつあります。

PerkinElmer Foundation ～パーキンエルマー基金～

1979年に設立されたパーキンエルマー基金は、疾病のより早期の正確な診断や、環境改善・環境保護を目的とした米国内の非営利慈善団体を支援しています。慈善寄付だけでなく、非営利団体の資格認定のための執行役員らによる寄付と同額を基金から毎年一定額まで寄付しています。



アレックスのレモネードスタンド ヒューマンヘルス・セールスマーケティングでは、200名以上の従業員が、「アレックスのレモネードスタンド」基金のために、僅か2時間で2万3,000ドル超を集めました。この活動は、がんと闘う子どもたちのため、よりよい治療と薬の開発を支援する非営利活動です。複数のチームが、フロリダ州ハリ

ウッドの町中にレモネードスタンドを出し、想像力と革新と連携とチームワークを駆使して、意識の喚起とレモネードの販売を行いました。売り上げはすべて、小児がん研究に寄付されました。



がん克服のためのキリマンジャロ登頂
英国パーキンエルマーの経理部長ニック・サルピンは、家族や友人、同僚、そしてパーキンエルマーのお客様からの支援を得て、総勢 33 名のキリマンジャロ登頂隊の一員になりました。そして、MacMillan Cancer Support への募金として 24 万 3,000 ドルを集めることができました。MacMillan Cancer

Support は、生活支援、医療・経済支援を提供すること、よりよいがん治療を促進することにより、がんと闘う患者さんたちの生活向上を目指しています。サルピン部長にとっては、これが 2 回目の MacMillan への募金活動の旅となりました。



Wishes for Sick Children に助成金
マレーシアの従業員はお客様の協力を得て、慢性疾患や末期疾患に侵された子どもたちの希望のための基金に、1 万 MYK (3,285 ドル) 以上を集めました。450 名以上がジグソーパズルに挑戦し、1 ピースが正しくはまるごとに、20 MYK (6.60 ドル) が寄付されるというイベントからの募金です



「For the Better」のための従業員教育 ブラジル サンパウロの事業所では、我が社の製品や分析ソリューションが人と環境の健康にどのように貢献するのか、まさに我が社の「For the Better」のキャッチフレーズが表わしているコンセプトについて、従業員を教育する情報提供の機会を設定しています。その中で紹介された一つの例が、4 か所の

輸血センターで使用されているパーキンエルマーの JANUS® 総合分析ソリューションの設置です。設置された機器は、地域の血液供給における HIV や肝炎のリスクを減らす検査を支援し、ブラジルの献血全体の安全性を向上させています。また、プログラムの一環として、従業員が移動献血活動に参加し、4 リットル以上の血液を地域の輸血センターに献血しました。



スミス家のおもちゃと本のアピール
パーキンエルマー オーストラリアは、12 月のクリスマスシーズンに、経済的に恵まれない子どもたちにプレゼントを贈る「スミス家のおもちゃと本のアピール」活動に寄付をしました。25 名の従業員が、オフィスのクリスマスツリーから名札を取り、自身が選んだ家族のために 65 個以上のおもちゃ、本などのプレゼントを購入しました。遠隔地の従業員もこの慈善団体のウェブサイトでの購入により支援しました。パーキンエルマーの負担で 50 個以上の小包が届けられました。



王樹震災被害者救援 中国深圳にあるパーキンエルマーの事業所の従業員 90% 以上が、王樹地区地震緊急援助と復興のため、中国赤十字に 3 万 2,480 人民元 (4,935 ドル) を寄付しました。

ENGAGING EMPLOYEES

2011 年、パーキンエルマーは、地域活動への参加を従業員に呼びかける新しいプログラムを実施いたしました。たとえば、世界中の従業員が自分の地域で丸一日ボランティア活動をする日を設けます。こうしたイニシアチブを含む地域活動への参加について、次の CSR レポートで報告いたします。

CONTRIBUTING TO EMPLOYEE WELL-BEING



HEALTH AND SAFETY ～健康と安全～

パーキンエルマーは、従業員こそが最も重要な財産である、よって、その健康と安全の確保が我が社の成功に不可欠であると考えています。

Keeping Our Employees Safe ～従業員の安全を守る～

職場で従業員の安全を守るために、ほとんどの製造施設において、OHSAS18001 基準に則した労働安全衛生マネジメントシステムとトレーニングを構築しています。このマネジメントは、事業所の運営に伴う健康と安全の問題点の評価・軽減を目的としています。個人の防護装備に限らず、排除・代替・工学技術統制・管理統制というリスク軽減のヒエラルキーを活用し、また、従業員は有害物質・化学物質の管理についての適切な研修を受け、定期的に再研修も受けています。

Keeping Our Employees Healthy

～従業員の健康を守る～

我が社では、心と身体の健康を増進する様々なリソースを提供することにより、従業員の健康とワーク・ライフ バランスを支援しています。リソースの内容は事業所ごとに様々ですが、たとえば、社内フィットネス施設または地元フィットネス施設の利用割引、従業員援助プログラム、健康的な食習慣のための社内給食、予防接種プログラム、健康診断、定期的な医療と福祉に関する情報提供、そのほか、事業所独自のプログラムなどがあります。

Managing Safety Reporting and Remediation

～安全報告の管理と改善～

パーキンエルマーは、業務関連の傷害・疾病を全社的に把握するため、米国職業安全衛生管理局 (U.S. Occupational Safety and Health Administration : OSHA) のメソッドにもとづいて、全世界で統一した報告制度を導入しています。また、国内の報告要件を満たすため、事業所ごとでも業務上の傷害・疾病のデータを収集しています。このデータは、傾向と内容を分析して、以降の研修の充実に活用されます。

図 1 は、2007 年から 2010 年までの業務上の傷害・疾病および休業災害率を示しています。2010 年、記録すべき事故の発生率の上昇がりましたが、休業災害率には変化が見られませんでした。

OHSAS 18001 CERTIFIED FACILITIES

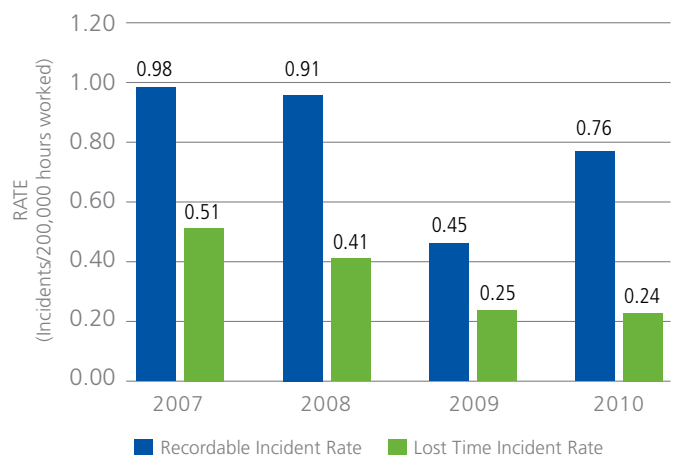
米国マサチューセッツ州 ボストン	米国コネチカット州 シェルトン
米国イリノイ州ダウナーズ グローブ	シンガポール
英国ラントリサント	フィンランド トゥルク
米国カリフォルニア州 サンタクララ	ドイツ ヴァルフ

2010年に見られた記録すべき事故の発生率の変化の理由:

- ▶ データを報告した施設が2009年と異なる
- ▶ 13のIDS施設を売却
- ▶ 新たに買収した施設や、これまで報告をしていなかった施設を追加

サンタクララの医療用画像機器製造施設は、500 日間連続無事故で 2010 年を終え、これまでの最高記録 285 日間を更新しました。

図 1 : 業務上の傷害・疾病に関するデータ





PRACTICING A
FUNDAMENTAL
IMPERATIVE

ENVIRONMENT ～環境～

Our Approach ～パーキンエルマーのアプローチ～

パーキンエルマーでは、環境保護を極めて重要な責任と認識しています。人と環境の健康を向上させるソリューションの開発をリードする我が社にとって、環境保護は根本と言えるものです。

我が社の環境責任と、地球気候に与える影響削減の取り組みを支援しています。

- ▶ 環境管理に包括的で体系的なアプローチを採用する。
- ▶ 事業間でベストプラクティスを共有する。
- ▶ 主要な環境パフォーマンス指標を使って、事業をモニタリングする。
- ▶ 定期的に事業を監査する。
- ▶ 定期的な環境管理評価を実施する。

Reducing Consumption at Work

～職場の消費を減らす～

我が社の環境活動は、事業所や地域社会に対する貢献で実績を上げています。たとえば、イリノイ州ダウナーズグローブの事業所は、エネルギー消費と埋め立て処分廃棄物の削減努力に対して、イリノイ州知事から持続可能性賞 (Sustainability Award) を受けました。工学的制御と従業員の行動改善を組み合わせて、この事業所では電力消費量を 2005 年と比較して 35% 削減しました。また、従業員のリサイクル活動により、2008 年から埋め立て処分廃棄物は 50% 以上も減っています。こうした取り組みにより、会社としても電気料金と廃棄物処理費用が過去 3 年間で 8 万ドル以上削減できました。

このような事業所を中心とした環境管理プログラムを活用して、地域のニーズや問題点に対応しやすい管理システムの構築を推進しています。また、我が社の施設の多くは、国際標準化機構の ISO14001 認証を取得しています。2011 年もさらに管理システムの認証を受ける施設を増やせるよう努力してまいります。

環境プログラムの一環として、我が社は様々なコンプライアンス、適正評価、管理システム監査を実施しています。2010 年は 7 件の監査を実施し、すべての是正措置が完了するまで管理を行いました。

ISO 14001 CERTIFIED FACILITIES

米国マサチューセッツ州 ボストン	米国イリノイ州 ダウナーズ グローブ
シンガポール	英国ラントリサント
フィンランド トゥルク	米国コネチカット州シェルトン
日本 東京	日本 九州
日本 横浜	日本 大阪

Product Stewardship ～製品スチュワードシップ～

パーキンエルマーでは、ひとびとの健康と環境に与える負の影響を抑えながら、パフォーマンスを継続的に向上させる製品を提供しています。

Specifically, we: ～以下のような取り組みをしています～

- ▶ パフォーマンスの向上と製品の二酸化炭素排出量削減を促進するため、製品のライフサイクル全体に渡って環境・衛生・安全に対する配慮を取り入れる。
- ▶ EU では廃電気電子機器に関する指令 (WEEE 指令) にもとづいて、お客様に使用済み製品の処理サービスを提供する。
- ▶ 製品包装と廃棄物の削減に努力する。

SMALLER AND MORE ENERGY EFFICIENT

環境方針のためのデザインを製品開発プロセスに取り入れることにより、パーキンエルマーの新しい Spectrum Two™ フーリエ変換赤外分光分析装置は、同製品の前のバージョンと比較してエネルギー消費を 76% 削減、包装を 90% 削減、さらに重量は 80% 近く軽くなりました。また、原材料を厳選することにより、製品のリサイクル性も向上しました。

世界中の専門家が人と環境衛生の向上を目指す中、使用するリソースを減らしながらより大きな洞察を得ること、新しいソリューションを生み出すこと、生活の質と環境を改善することに、我が社のテクノロジーが役立つことを認めています。

環境に対する責任を果たしつつ高品質の製品を設計するために、我が社は次のような項目の分析を行っています。

- ▶ 製造に使用する原材料の種類
- ▶ 使用する原材料の量
- ▶ 包装と配送の環境適合性
- ▶ 製品の使用中の環境負荷
- ▶ 製品の耐久性と保守性
- ▶ 使用済み製品のリサイクルと廃棄

プロセス全体を通じて、消費者と製品に関する規制要件の順守に重点的に取り組んでいます。ケースバイケースで製品および業務上のリスクを評価・管理し、高懸念物質（substances of very high concern：SVHC）その他の規制有害物質を特定しています。

2009年と2010年には、EU域内で、それぞれ188トンと209トンの製品をリサイクルしました。EUのお客様向けのリサイクルとコンプライアンスの情報は、パーキンエルマーの [環境指令に関するホームページに掲載されています](#)。

Product Compliance ～製品コンプライアンス～

我が社では、製品内容の必要な情報を効率的に提供できるように、サプライヤーとの間に情報提供のための集中的なプログラムを整備しています。たとえば、SVHCの存在が疑われる場合に、個別サプライヤーを通じて、または標準化されたサプライヤー調査を通じて情報を収集します。必要な場合には、一般に公開されている情報や、化学物質についての一般的な知見、場合によっては化学分析データを使って、サプライヤーからの情報を補完します。

現時点では、我が社の製品に法的基準値を超える濃度のSVHCは検知されていません。EUの化学物質登録評価許可規則（REACH）に定められる法的要件は拡大が続いているため、製品中の制限物質の使用に関して、サプライヤーおよびお客様との間での情報伝達プログラムの実施に取り組んでいます。

同様に、電気・電子機器のメーカー兼サプライヤーである我が社は、EUの特定有害物質使用制限に関する指令（RoHS）および廃電気電子機器に関する指令（WEEE）の対象となる製品を製造しています。現在、カテゴリ8（医療機器）およびカテゴリ9（モニタリング機器および管理機器）の製品は、有害物質含有に関する制限からは除外されています。RoHSおよびWEEE指令の今後の展開を継続的に注目し、我が社の製品がこれらの規制要件を順守し続けられるよう努力してまいります。

BUILDING PRODUCTS TO LAST

パーキンエルマーの次世代 ICP 質量分析装置 NexION® は、これまでの ICP 質量分析装置製品を超える多くの環境上のメリットを有しています。たとえば、試料の使用量や廃棄物の発生量が少ないこと、プラズマがオフの場合の省エネモード、冷却用空気の少なさや騒音の小ささなどがあげられます。

REUSING HAZARDOUS WASTE

マサチューセッツ州ボストンにあるパーキンエルマーの事業所では、試薬の製造に使用する炭素 14 およびトリチウムの余剰分の再利用を進めています。この新しいプロセスにより、廃棄可能な低レベル放射性廃棄物の排出量を減らすだけでなく、新しい放射性物質の購入量も削減できます。

DESIGNING ECO-FRIENDLY PACKAGING



技術者の創意工夫により、交換用中空陰極ランプについて、製品の品質と信頼性を損なうことなく、包装の体積と重量を 50% 削減することができました。同様に、原子吸光分光装置のランプと噴霧器の交換用ボードの包装についても、重量を 50% 減らしています。

Sustainable Manufacturing and Operations

～持続可能な製造～

パーキンエルマーのアプローチ

パーキンエルマーは、エネルギー効率の高い事業所の運営と、資源保護・汚染防止に関する対策の立案・実施に取り組んでいます。

Specifically, we: ～以下のような取り組みをしています～

- ▶ 環境・衛生・安全 (environment, health and safety : EHS) リスクを評価・管理するための様々な方針と手順を備えた、EHS 管理システムを実施する。
- ▶ あらゆるレベルの個人の責任を強調することにより、方針と手順の効果的な実施を推進する。
- ▶ 手順の順守に必要なツール・研修・リソースを従業員に提供し、我が社の施設においてもお客様の施設においても、合理的な予防措置を実施する。
- ▶ EHS パフォーマンスを監視するため、多様な経営指標を活用する。

新たに買収されて我が社の経営理念・方針・実践に加わった施設の統合が 2010 年の焦点であり、2011 年も継続しました。Signature Genomics の買収その他の企業買収と、パーキンエルマーの Illumination and Detection Solutions (IDS) 事業の売却とにより、特に我が社の各目標に関係する主なパフォーマンス指標について、データの調整が必要になりました。

電力使用量、燃料使用量、水使用量、温室ガス排出量、有害廃棄物排出量などの主な環境パフォーマンス測定は、我が社の全世界の事業の約 85% に相当する事業所について実施しています。これらの事業所には、製造施設、研究開発施設、大規模経営関連施設が含まれます。セールス関連や小規模の経営関連の事業所は、主なパフォーマンス測定データには含まれていません。モニタリングプログラムへの新しい施設および環境パフォーマンス指標の追加については、毎年を検討を行っています。

NORMALIZING OUR DATA

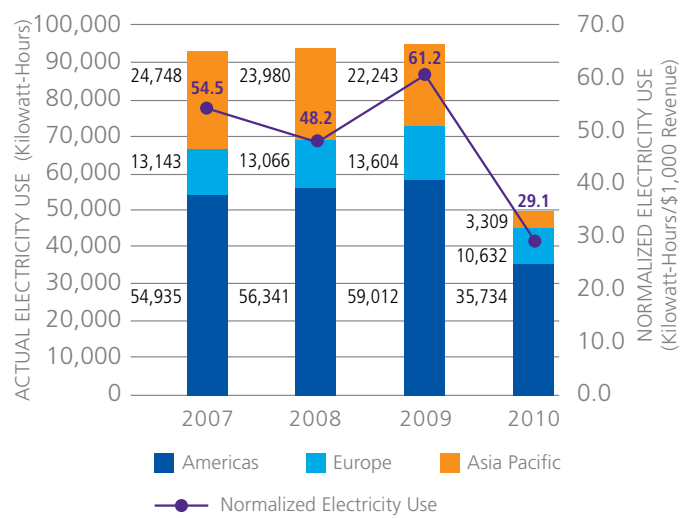
大型分析機器から消耗品、サービスまで、我が社の製品は非常に多岐に渡るため、製造や事業のアウトプットにもとづく代表的な規準化ファクターは特定することができていません。したがって、毎年の変化を比較するために最も代表性の高いファクターとして、収益を選択しました。

エネルギー消費

一般に、パーキンエルマーの事業所は、地域の電力会社が供給する電力で運営されています。コネチカット州シェルトンおよびイリノイ州ダウナーズグローブの事業所では、ピーク需要の時間帯に自社の非常用発電機を運転して、送電網への負荷を減らすプログラムに参加しています。

図 2 は、2007 年から 2010 年までの世界全体での実質の電力使用量と正規化した使用量を表わしています。

図 2 : 全世界での実電力使用量と正規化使用量



電力の実使用量と正規化使用量に変化が見られた原因:

- ▶ データを報告した施設がこれまでと異なること
- ▶ 13 の IDS 施設の売却
- ▶ Signature Genomics の買収その他の企業買収
- ▶ 初めてデータを報告する施設

新しく買収した施設や初めて報告する施設は、我が社の 2010 年の電力消費の 10% に相当します。これらおよび IDS 施設の分を除くと、我が社の電力使用量は 2009 年とほとんど変わっていません。実使用量と同様、正規化した使用量でも、新しい施設の算入とよりエネルギー消費の多い IDS 事業の売却の結果として、使用量は減っています。各事業所は、コスト効果の高いエネルギーの最適化と省エネのプロジェクトを立案・実施しています。プロジェクトの例としては、基板製造施設における運動センサー設置や換気コントロール施設の改善、施設機器の可変周波数駆動などがあります。

エネルギーモニタリングプログラムの一環として、各事業所で使用される燃料量について追跡調査を行っています。ボイラーその他の施設機器の運転に、燃料油と天然ガスが使用されています。図3は、我が社の施設における2007年から2010年の燃料の使用量を示したものです。2009年およびそれ以前は、コネチカット州シェルトンの事業所が、我が社の全世界の燃料油使用の約99%を占めています。2010年にこの事業所の燃料油を使うボイラーを天然ガスボイラーに交換したため、今後の燃料油使用は減少し、この事業所の二酸化炭素排出量も約66%削減されると予想されます。我が社は施設機器の交換時には、より燃料効率の高い選択を行う予定です。

温室効果ガスの排出

パーキンエルマーは、カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト (Carbon Disclosure Project) に積極的に参加しています。この非営利組織は、温室効果ガスの排出の気象変動戦略に関する情報を、世界数千の企業から収集しています。また、グリーン電力の組織的な調達を支援する、米国EPAグリーン電力パートナーシップ (Green Power Partnership) にも参加しています。2006年からは、カーボン・ディスクロージャー・プロジェクトに、温室効果ガス排出量の報告を行っています。2010年、我が社は、再生可能エネルギー証 (renewable energy certificate: REC) を1,500メガワット分購入しました。2011については、既に米国風力RECを5,000メガワット分購入しており、これは2010年電気消費量の約10%に相当します。

我が社は、世界資源研究所 (World Resources Institute) と持続可能な開発のための世界経済人会議 (World Business Council for Sustainable Development) が開発した「温室効果ガスプロトコル: 企業の排出量算定と報告の基準 (改定版)」を使用して全世界での温室効果ガス排出量を計算しています。図4は、2007年から2010年までのscope 1および2の温室効果ガス排出量を示したものです。このグラフから、エネルギー消費の多いIDS事業の売却が温室効果ガス排出量に与えた影響の大きさが分かります。売却した資産や最近の買収施設、新規報告施設を除外すると、scope 1および2の二酸化炭素相当排出量は、若干減少しました。一方、出張によるscope 3の排出量は、14%増加しました。scope 1および2の温室効果ガスを2013年までに2009年比で10%削減する

図3: 全世界での燃料使用量

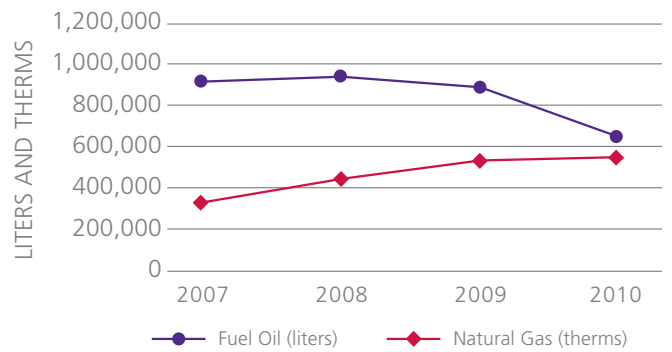
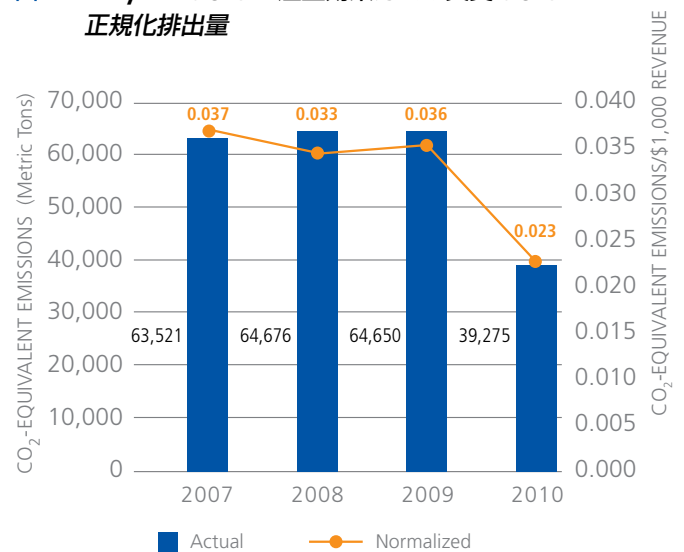


図4: Scope 1および2 温室効果ガスの実質および正規化排出量



という目標に向けて我が社は努力を続けており、その一環として、社有車の効率化をめざした新しいプログラムも開始しました。なお、図4に示した2009年の基準値は、新しい報告施設の追加を反映して、今後のレポートでは調整する予定です。

LOWERING EMISSIONS FROM COAST TO COAST



- ▶ コネチカット州シェルトンの事業所では、軽油を使う5基のボイラーを、4基の天然ガスボイラーに交換しました。これにより、効率が高くなっただけでなく、粒子状物質、硫酸化物、亜酸化窒素の排出量も80%以上削減されました。
- ▶ 8月には、カリフォルニア州サンタクララにある製造施設で、2基の既存大気温水ボイラーを、2基の新しい高効率復水ボイラーと交換し、燃焼効率が90%以上向上しました。このボイラーは常時運転され、オフィススペースの暖房と製造施設の湿度調整のための温水を供給しています。新しいボイラーは、天然ガスの使用量を17%削減すると推定されます。

水の使用

パーキンエルマーは公共水道から水を購入して使用しており、施設の排水は公共の処理施設に流しています。図5は、2007年から2010年までの実質の水使用量と正規化した使用量です。IDS事業の売却と最近の買収施設と新規報告施設の算入の結果、2010年の数字が影響を受けています。これら変化は図5からも明らかです。報告に含まれる施設の変化に加え、2010年の全使用量の60%以上に相当するカリフォルニア州サンタクララの事業所など、複数の事業所での使用量も2009年から2010年で減少しました。サンタクララの事業所では、逆浸透リジェクト水の削減、自動部品洗浄装置の設置、製造プロセスでの水使用効率化によって、2009年から2010年で10%の削減を達成しました。今後も水使用の削減の対策を立案・実施し、2010年を新たな基準値とした水使用削減目標を設定する予定です。

有害廃棄物

パーキンエルマーの製造施設・研究施設では、地域および国内の規制によって有害に分類される多数の廃棄物を排出しています。リユース・リサイクリング、原材料の選択、化学的置換、その他の方策によって、廃棄物の発生と有害性の削減を追求していきます。

図6は、2007年から2010年の有害廃棄物の排出量（実質および正規化）をまとめたものです。実質および正規化の排出量が増加しているのは、カリフォルニア州サンタクララの基板製造施設での有害廃棄物の排出量が56%増加したことによるものです。この施設は、2009年で我が社の全排出量の55%、2010年で82%を占めています。この施設での有害廃棄物排出量の増加は、新しい製造ツールの認定が原因です。このツールの認定プロセスで排出された廃棄物の見直しを受け、有害廃棄物と無害廃棄物が分離され、このツールから排出される有害廃棄物の量は大きく減少しました。

図5：全世界での水使用量（実質および正規化）

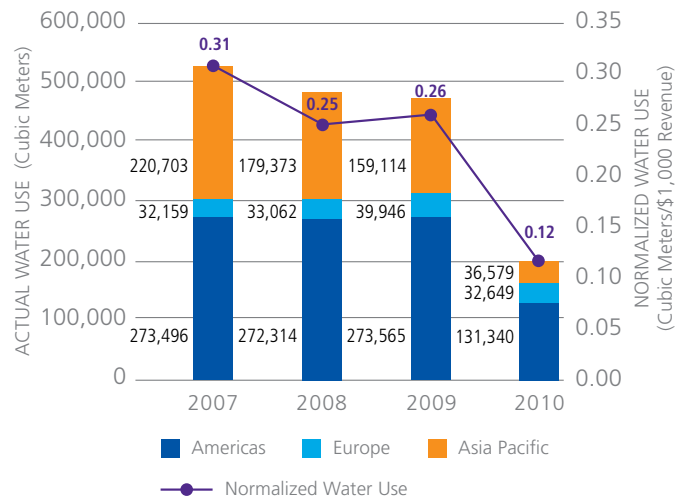
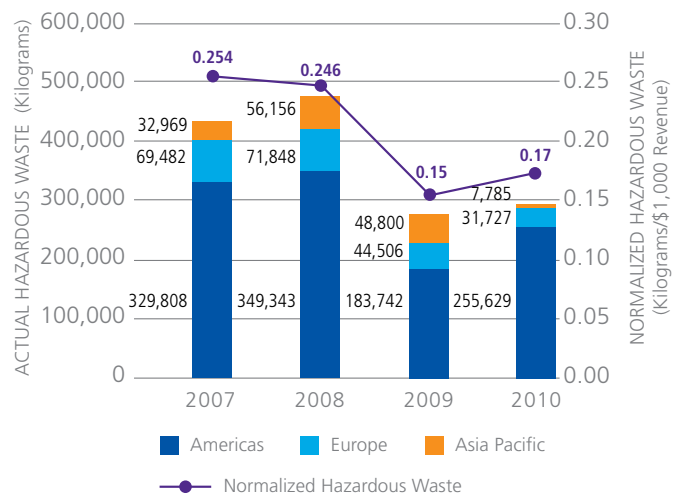


図6：全世界での有害廃棄物排出量（実質および正規化）





ECONOMIC ～経済～

すべての企業と同様、パーキンエルマーの日々のビジネスがステークホルダーの皆さまに経済的な影響を与えます。パーキンエルマーの金融取引は、次のような様々な人たちに直接の影響を持っています。

- ▶ パーキンエルマーの従業員
- ▶ パーキンエルマーの製品やサービスを選択するお客様
- ▶ パーキンエルマーが製品やサービスを購入するサプライヤー
- ▶ パーキンエルマーが税金を支払う政府
- ▶ パーキンエルマーが投資をする地域社会
- ▶ パーキンエルマーの投資家の皆さま

PerkinElmer Financial Information

～パーキンエルマーの財務情報～

パーキンエルマーは、世界の国・州・地方の政府が製造業者に一般に提供する税優遇措置以外、政府からの大きな財政支援を受けていません。税優遇措置の例としては、製造機器・施設への投資、雇用創出、従業員教育、製造または研究開発への関与などに対するインセンティブがあります。

2010年、我が社は、画期的技術の買収と研究開発への支出を通じて製品とサービスの幅を拡大し、より高い収益を生み出す戦略を継続しました。

- ▶ 細胞イメージング能力の強化のため VisEn を、マイクロアレイによるクロモソーム分析のイノベーターである Signature Genomics をそれぞれ買収しました。また、我が社が出資する誘導結合プラズマ質量分析装置の合併会社の残余財産も取得しました。
- ▶ 我が社の事業が持っていた複雑さを解消し、IDS 事業の売却により残った事業の能力を強化するために、資本を有効活用しました。

事業と 2010 年の最新の展開についての詳しい内容は我が社の年次報告書の書式 10-K をご参照ください。

これらやその他の取引を通じて、我が社が支出する費用は、間接的に個人や事業、地域に影響を及ぼします。また、我が社が送り出す製品とサービスも、より広域の経済において生活の質や生活条件を向上させるという形で、人びとと環境の健康に影響を持っています。

下の表に、財務情報を一部まとめました。

FINANCIAL HIGHLIGHTS*		
	2009年	2010年
収入	\$1,551	\$1,704
純利益	\$.086	\$0.384
研究開発費	\$.091	\$0.095
利益剰余金	\$1,629	\$1,926

*数字の単位は、100万米ドル。

GRI CONTENT INDEX ~ GRI 内容索引 ~

パーキンエルマーは、今回の CSR レポートで、GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン第 3 版に沿って開示方法を見直しました。この見直しにもとづき、我が社は「アプリ

ケーションレベル B」を自己宣言いたします。我が社の開示がどのような形で GRI ガイドライン第 3 版に対応しているかについては、このレポートの目次に掲載した GRI 索引に示しています。

Report Application Highlights

	2002 In Accordance	C	C+	B	B+	A	A+
Mandatory	Self-Declared		Report Externally Assured	★	Report Externally Assured		Report Externally Assured
Optional	Third-Party-Checked						
	GRI-Checked						

ABOUT THIS REPORT ~このレポートについて~

パーキンエルマーの 2010 年度 CSR レポートは、我が社のプログラム、プロセス、進捗、パフォーマンス指標についての情報を更新するとともに、責任ある企業市民としての我が社のコミットメントを重点的に取り上げています。

このレポートは、パーキンエルマー社および連結子会社における CSR プログラムやイニシアチブについての情報に加え、経営データも掲載しています。幅広いステークホルダーの皆さまからフィードバックをいただき、レポートの読者に皆さまに関連・関心が高い内容を特定しています。情報源としては、社内・社外のステークホルダーの皆さまからの E メール、主要理事との面談、従業員対象の調査、業界および規制当局の進展状況などがあげられます。

このレポートに掲載した経営データは、パーキンエルマーの総事業面積の約 85% に相当する比較的大規模な事業所で収集されたものです。我が社はこれら大規模施設をカナダ、フィンランド、ドイツ、インド、中国、シンガポール、英国、米国で展開しています。データは、2007 年 1 月 1 日から 2010 年 12 月 31 日までの間、直接の測定にもとづく様々な内部情報ソースおよびサービスプロバイダーの情報をまとめたものです。データの完全性と信頼性は、定期的な内部監査

を通じて事業所ごとに確保されており、独立した第三者監査人による証明を受けたものではありません。今後、毎年の報告サイクルの中で、第三者による検証を再評価する予定です。財務情報は、2007 年 12 月 30 日、2008 年 12 月 28 日、2009 年 1 月 3 日、2011 年 1 月 2 日をそれぞれ末日とする会計年度を対象としています。

このレポートの作成の過程で、2009 年の記録すべき事故の発生率と休業災害率の計算に誤りがあることが分かりました。このレポートでは修正したデータを掲載しています。同様に、2007 年から 2009 年の温室効果ガス排出量のデータにも計算ミスが発見され、このレポートには修正したデータを掲載しました。

このレポートに対する皆さまからのフィードバックをお待ちしております。質問やご意見は、CSR@perkinelmer.com にお寄せください。

TAKING ACTION FOR THE HEALTHIER FUTURE

PERKINELMER JAPAN CSR ACTIVITY

～パーキンエルマー日本の取り組み～

パーキンエルマーは、“FOR THE BETTER” をキーワードに、“Human Health” と “Environmental Health” を事業ドメインとして、グローバルでビジネスを展開しています。また、パーキンエルマーは、良き企業市民として社会へ貢献するだけでなく、世界各国の従業員が “For The Better Day” という活動を通じて、地域社会へ還元する取り組みも積極的に行っています。

これを基に、パーキンエルマー日本は、ひとびとの健康と安全、そしてそれをとりまく地球環境を守ることにフォーカスし、“環境” をテーマとした CSR 活動を展開しています。

これまで我々は環境マネジメントシステム ISO14001 の取得、苗木植樹運動やチーム・マイナス 6%（現在のチャレンジ

25 キャンペーン）への参画など、社員全員が様々な活動を通じて、「環境」に対する意識を高めてきました。2011 年度は、東日本大震災復興支援プロジェクトをはじめ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンや日本赤十字社の活動への賛同および支援活動、さらには、地域社会活動として野村不動産株式会社が開催した「第 3 回ビオトープ観察会」に参加し、地域の小学 4 年生を対象に環境授業および水質実験を行いました。

ここでは、2011 年度のパーキンエルマー日本の取り組みについてご紹介いたします。

ご挨拶

パーキンエルマー日本は、日本の様々な産業分野に対してパーキンエルマー社が創業以来、蓄積してきた技術やノウハウを活用し、その発展に貢献をしております。しかしながら、現代の日本では、産業の発展がもたらした豊かな物質社会を人々は享受する反面、環境や人々の健康に関しては、そのような産業発展に起因する問題を解決する必要性に迫られております。

このような状況の下、パーキンエルマー日本では、CSR活動を生産価値の創造と並ぶ企業もつ根幹的な社会的使命と位置づけ、経営資源の積極的な投入を行っていくことを経営の基本方針としております。我々社員が一丸となって、日本の社会が直面する環境及び健康にかかわる問題に注目し、それを改善、または解決するための一助となるべく実効性のあるCSR活動を実現することを目指してまいります。

近年のパーキンエルマー日本の具体的なCSR活動につきましては、本レポートの中にもいくつかご紹介させていただきました。今後は、このようなCSR活動をさらに積み重ねて行くと共に、我々が持つ基本技術やノウハウを駆使して、ひとびとの健康と安全、そしてそれをとりまく地球環境に対し、革新的かつ効果的なソリューションをCSR活動の延長として構築してまいります。



代表取締役社長
青木睦郎

Japan Rapid Response Effort

～パーキンエルマージャパン震災復興支援プロジェクト～

2011年3月11日の東日本大震災に際して、当社はパーキンエルマー米国本社と一丸となり、Japan Rapid Response Effort Project を発足いたしました。このプロジェクトは永年培われてきた我々の分析測定技術・知識・経験を最大限に生かしてこの危機からの復興を支援したい一念で進められています。

具体的には、被災地域および災害救援に携わる研究機関に、放射線分析装置（ガンマカウンター、液体シンチレーションアナライザーなどの放射線量スキャンニング装置、ウラン・プルトニウムなどの重金属を測定するためのICP質量分析装置やその前処理装置）の無償貸与、またそれら測定に用いる消耗品類の提供と同時に、分析・測定技術のトレーニングやコンサルテーションを実施しています。

2011年12月現在では、東京大学アイソトープセンター、福島大学災害復興プロジェクトチーム、東北大学大学院環境科学研究科の各研究機関がこのJapan Rapid Response Effort Project の趣旨にご理解、ご参画いただいています。各先生方の熱い志の下、災害支援活動に加わることができたこと、さらに本プロジェクトを通して、技術的にも多くの事を学ぶことができましたことを深く感謝しています。大変喜ば

しい結果として、各大学の先生方のご協力のもと「放射能分析セミナー」を実施し、幅広いジャンルから500名を超える参加者にお越し頂きました。さらに提供しました装置・技術を用いて、弊社研究員と共同研究の結果、新たな分析メソッドの開発が社団法人日本分析化学会に認められましたことも加えて報告いたします。



この一連の活動が今後の被災地の皆さまの「健康」と「安全な生活」に繋がることを確信して、これからも日々努力邁進してまいります。



Supporting Japan
in the wake of the Tohoku
earthquake

SEMINAR & EVENT

パーキンエルマー・ジャパンは、セミナーやイベントなど、お客様との交流の場を利用してCSRの活動や取り組みの紹介を行っています。ここでは、セミナーやイベントを通じ実施した活動についてご報告いたします。

環境放射能セミナー



パーキンエルマー・ジャパンは、2011年7月8日、8月4日の2日間、「いま我々にできること」をテーマに放射能分析セミナーを開催しました。本セミナーは、東日本大震災後、分析機器メーカーである我々

ができることは何かを考え、正しい知識、そして正確な情報を共有する場”を提供することを目的として開催する運びとなりました。また、学術的、技術的な発表のみならず、様々な形での復興支援の取り組みを紹介する場として、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンや日本赤十字社の活動についての展示や紹介も行いました。

For The Better Forum 2011



パーキンエルマー・ジャパンは、2011年10月4日に「ひとびとの健康、それを取り巻く地球環境について考える」をテーマに、PerkinElmer Japan For The Better Forum 2011を開催しました。このフォーラムでは、技

術的なセミナーだけではなく、現在、地球が直面している問題について有識者による招待講演も行い、地球環境について見識を深める場となりました。また、「頑張ろう東北」と題したイベントや、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンや日本赤十字社の活動紹介、パーキンエルマー・ジャパン CSR 活動報告展示も行いました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援はもちろんのこと、世界中の子どもたちへの支援を行っています。環境放射能セミナーやFor The Better Forum 2011の展示スペースでは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのパネル展示や活動紹介を行いました。

日本赤十字社



日本赤十字社は、災害救護活動や国際活動、血液事業など多岐に渡る活動を行っています。パーキンエルマー・ジャパンは、様々なセミナーやイベントを通じて、活動紹介パンフレットの配布や写真パネル展示、DVD「東日本大震災～被災地での40日間」の上映を行い、日本赤十字社の医療救護活動の紹介を行いました。

YBP ホタルがすむ街づくり展 2011



「ホテルのすむ街づくり展 2011」は、ホテル観賞を通じて環境問題や自然の大切さを考えるきっかけづくりをテーマに地域に密着したイベントです。地域住民の皆様、多くの団体の皆様と共に、自然や生物の大切さに触れ合い、その重要性を考える機会を提供することを目的として開催されています。パーキンエルマー・ジャパンは環境活動に取り組む企業としてパネル展示を行っています。

環境マネジメントシステム (ISO14001)

パーキンエルマー・ジャパンでは、地球環境保全への社会的責任を果たしていくために、国際環境規格である環境マネジメントシステム ISO14001 を取得することとし、2007年7月にキックオフ宣言を行い、社内にEMS推進組織を発足させました。

2008年6月7日の横浜本社・東京営業所の認証取得に続き、2009年7月15日には大阪支社ならびに九州営業所を含む4事業所の認証取得を完了しました。

パーキンエルマー・ジャパンは、環境マネジメントシステムの運用に加え、全ての事業活動に対して環境への負荷を継続的に低減することを目的とした積極的な取り組みを実施しています。

FOR THE BETTER DAY 2011

～小学生向け実験教室～

パーキンエルマー・ジャパンは、2011年9月9日に野村不動産株式会社が開催した「ビオトープ観察会」へ参加しました。ビオトープ観察会は、野村不動産株式会社が毎年実施している地域貢献活動です。この活動は、地域の小学生に昆虫や植物の観察会を通じて、地球環境や自然の大切さを考える場になることを目的としています。今回のビオトープ観察会は「水」をテーマに、横浜市保土ヶ谷小学校4年生56人と横浜市帷子小学校4年生69人を対象に行われました。



今回の実験教室は、我々パーキンエルマー・ジャパンにとっても初めての取り組みでしたが、昨今の子どもの理科離れ、科学技術離れといった問題意識のもと、我々、分析機器メーカーとして何ができるかということ念頭に活動内容を考えてきました。

そして、「実験を通じて理科に興味を持ってもらいたい」、「理科の勉強と社会とのつながりをわかってもらいたい」という思いから、今回の取り組みに至りました。実験教室は、本社がスポンサーとして参加しているWorld Water Monitoring Dayの実験キットを使用して、「水の性質～生き物にやさしい、かわらない地球を～」と題して行いました。はじめに、酸性雨の原因や影響について説明を行い、水の性質が環境に及ぼす影響について授業を行い、続いて、身近な水をサンプルとして酸性、中性、アルカリ性を調べる実験を行いました。子どもたちは白衣と実験用手袋を着用して実験を進め、サイエンティストとして環境を守るために自分たちには何ができるかを一緒に考えました。子どもたちからは、「酸性雨が降らないように、将来車にあまり乗らないようにしたいと思った」、「今日勉強したことを家族のみんなに教えてあげたいです」などたくさんの感想や質問がでて、とても有意義な時間を共有することができました。



World Water Monitoring Day 実験キット



今後もパーキンエルマー・ジャパンは、一人でも多くの皆様に環境や自然の大切さを考えるきっかけ作りのために、そして、未来の技術者のためにこのような取り組みを継続していきたいと考えています。



株式会社 パーキンエルマー・ジャパン www.perkinelmer.co.jp

本 社 〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町134横浜ビジネスパークテクニカルセンター 4F
ASLS事業部 分析機器 TEL. 045-339-5861
ラボラトリーサービス TEL. 045-339-5889
ライフサイエンス事業部 TEL. 045-339-5862
ダイアグノスティクス事業部 TEL. 045-339-5883

大阪支社 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町5-3
東京営業所 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-7-17 CTKビル 5F
名古屋営業所 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-6-23 第3堀内ビル 9F
九州営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-12-6 花村ビル 2F

©2012 PerkinElmer Japan Co., Ltd.

January 2012